

社会安全・警察学第6号発刊に当たって

田村 正博

社会安全・警察学研究所 所長
京都産業大学法学部 教授

当研究所は、2013年の発足以来、「警察学」の名を冠した日本で唯一の研究所として、「社会安全への取り組みと犯罪防止の核となる警察のあり方についての学問的研究」を基に、「社会安全の担い手の方々の協働の促進」という実践的な課題に取り組んできました。警察、児童相談所、教育委員会・学校など多くの関係機関、多くの関係者の方々にご協力をいただいたことに、厚く御礼申し上げます。

当研究所では、これまで、主として、子どもの非行防止と立ち直り支援、親密圏内事案への警察の介入をテーマに調査研究に当たってまいりました。2015年11月から2019年3月までは、学内及び他大学の研究者の方々、関係機関の実務家出身の方々にもご参加いただいて、科学技術振興機構（JST）の社会技術研究開発センター（RISTEX）の研究開発プロジェクト「親密圏内事案への警察の介入過程の見える化による多機関連携の推進」（研究代表者・田村正博）に取り組み、調査研究結果を基に「児童福祉に携わるひとのための「警察が分かる」ハンドブック」を作成・提供したほか、本紀要の第4号及び第5号をRISTEX研究プロジェクト特集号として、シンポジウム、論文・研究報告を掲載いたしました。

本号には、プロジェクトの一環として2019年2月4日に開催したシンポジウム「児童虐待対応のための警察と福祉の対話を目指して」における講演と3つのワークショップのまとめを掲載いたしております。

プロジェクトを終え、これまでの調査研究にご支援ご協力をいただきました皆様への報告を兼ねて、研究所のこれまでの活動と成果をとりまとめ、本号に掲載いたしました。あわせて、学校調査の報告も掲載いたしております。

当研究所では、親密圏事案における刑事的介入と多機関連携のあり方に関する研究、児童福祉法制研究、供述支援に関する調査研究等に当たっているほか、2020年2月には性暴力被害に関するシンポジウムの開催も予定いたしております。

皆さまには、引き続きご支援、ご協力をお願い申し上げます。

(2019年12月記)